

市町村回答票

☆該当する診療所がない場合でも、この回答票はご返送ください。

A. 市町村名： _____ 都道府県

B. ご担当者についてご記入ください。(調査用紙についてお問合せをする場合がございます)

ご所属 _____

お名前 _____

職名 _____

E-mail address _____

連絡先電話番号 _____

職種(該当するものをお選びください)： 保健師 その他の医療職 事務職

C. 市町村内の人口： _____人 (平成20年10月1日現在)

D. 市町村内の無医地区数： _____地区

E. 市町村内の無歯科医地区： _____地区

F. 市町村内に次のへき地指定を受けている地域があれば○をつけてください(複数回答可)
過疎 山村 豪雪 特豪 離島 沖縄 奄美

G. 市町村内のへき地等にある診療所の数： _____か所
(要件を満たす民間施設を含む)

H. 調査用紙を配布した診療所の数： _____か所
(回答率の算出に必要ですので必ずご記入ください。)

I. 回答した診療所の数： _____か所

平成 21 年 3 月 23 日

へき地等の診療所の所長 様

厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を
構築する方策および評価指標に関する研究」班
〔主任研究者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教授)〕

平成 20 年度厚生労働科学研究への協力について (お願い)

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちは平成 17 年度から 3 年間にわたって「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」研究を行ない、へき地・離島に赴任する医師を増加させることを目的とした『へき地・離島医療マニュアル』、「都道府県へき地・離島保健医療計画策定に向けての事例集(平成 18 年度版)」、「へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成 19 年度版)」を作成し公表いたしました。この 3 つの著作物につきましては、へき地離島救急医療研究会のホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/emraii/index.shtml>)にてご覧いただけます。

また、平成 16 年度にはへき地にある診療所の所長および勤務されている医師の方々を対象として「へき地の保健医療に関するアンケート調査」を行いました。回答いただきました先生方にはお世話になりました。この調査の結果については、厚生労働省ホームページ内 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/06/s0608-9b1.html>にて掲載されています。

今年度は標記の研究事業において、へき地・離島の保健医療を向上させる具体的な方策を示すとともに評価の方法を提示することを目的としております。

そこで、「へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成 19 年度版)」で提示したへき地等の保健医療に関するガイドラインの実際の充足状況、へき地・離島に勤務する医師の生活環境、医師が受けた研修と診療状況との関係等につきまして、へき地等の診療所に勤務医師に対してアンケート調査を行なうことにいたしました。

つきましては、貴診療所において別添のようにアンケートを実施いたしたく、お忙しいところ恐縮ですが、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

なお、ご回答は統計的に処理いたしますので、個人や診療所が特定されることは、一切ございません。設問の一部に個人の特性を記入する欄がございますが、市町村担当者に渡される際、ご懸念がある場合は、任意の封筒等に封入してお渡しいたいただきますようお願い申し上げます。

調査内容照会先

自治医科大学救急医学教室(担当：鈴木、今道)

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

電話 : 0285-58-7395

F A X : 0285-44-0919

へき地等の診療所に関するアンケート調査の概要

1. 調査の目的

「へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成 19 年度版)」で提示したへき地等の保健医療に関するガイドラインの実際の充足状況、へき地・離島に勤務する医師の生活環境、医師が受けた研修と診療状況との関係等について調査を行なうことで、へき地等における保健医療の状況とガイドラインの改善すべき点を明らかにすることを目的としています。アンケート調査や現地調査の分析等から、現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標を提示することとしています。

2. 調査の対象

全国のへき地等にある診療所に勤務する医師。

この調査で対象とする「へき地等にある診療所」には、1) 過疎、山村、豪雪、特豪、離島、沖縄、奄美などの法律が適用されている地域にある診療所、2) へき地診療所に指定されている診療所、3) 市町村の保健医療政策担当者が特に医療の供給が十分でないと判断する地域に存在する診療所が含まれます。なお、対象には、以上の要件を満たす民間医療機関等も含まれます。

3. 調査票の配布

市町村から、該当する診療所に調査用紙および概要(本紙)の配布をお願いします。該当する診療所がない自治体においても別添の市町村回答票に必要事項をご記入の上、ご返送ください。

こちらからお送りした調査用紙が不足する場合は、事務局までご連絡いただければ、追加の調査用紙をお送りいたします。

4. 調査票の記入

診療所に勤務する医師(複数の医師が勤務されている診療所では、もっとも勤務時間の長い方、もしくは赴任期間の長い方が代表してご記入ください)の方は、調査用紙にご回答の上、市町村担当課へご提出ください。個人情報保護のため、封筒などに入れてご提出いただいても結構です。

5. 調査票の取り扱い

調査内容の分析、結果の取りまとめ等は全て匿名で行います。ただし、一般に公表されている医療機関の客観的データ(市町村内の施設数、人口など)については、結果的に医療機関等が特定できる形で取りまとめる可能性があります。

6. 調査票の回収

市町村の担当の方は、管内診療所からの回答を取りまとめの上、事務局までご返送ください。封筒などに封入されて提出された回答につきましては、開封せずご返送ください。ご返送にあたっては、市町村名、ご担当者名、配布診療所数、回答診療所数等につきまして市町村回答票にご記入いただき、回答された調査用紙とともにお送りください。

7. 調査の実施主体及び調査結果の取りまとめ

本調査は、厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班(主任研究者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教室教授))で実施するものです。当研究班では、調査結果を取りまとめて、報告書を作成します。

8. 調査票の返送先および調査内容の照会先

「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班 事務局
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3 3 1 1-1 自治医科大学救急医学
電話：0285-58-7395 FAX：0285-44-0919 (担当 鈴木、今道、半澤、上野)

へき地等の診療所に関するアンケート調査

- A. 診療所名： _____
B. 診療所の所在地： 〒 _____
C. 回答者のお名前： _____ D. 役職名 _____
E. 年齢： _____歳 性別：男性 ・ 女性 F. へき地医療の経験年数： _____年(現在の所属を含む)
G. 現在の所属の勤務年数： _____年
H. 出身大学名 _____ I. 卒後年数： _____年

J. 貴診療所が設置されている地域の法律適用状況(複数回答可)

- 1) 過疎 2) 山村 3) 豪雪 4) 特豪
5) 離島 6) 沖縄 7) 奄美

K. 貴診療所はへき地診療所として指定されていますか。 1) はい 2) いいえ

☆このアンケートの文章内の「診療圏」とは、貴診療所において実際に保健医療を提供している地域および受診している住民が居住している範囲を指します。そのようにご理解の上、ご回答ください。

L. 貴診療所の診療圏に無医地区に該当する地区(無医地区に準ずる地区を含む)はありますか。

1. はい 2. いいえ

M. 貴診療所の診療圏に無歯科医地区に該当する地区(準ずる地区を含む)はありますか。

1. はい 2. いいえ

【診療所の概要】

問1 診療所に関する基本情報をご回答ください。

1) 診療所の診療圏(貴診療所が保健医療を提供している地域および受診する住民が居住している範囲)の人口
推定 _____人

2) 貴診療所の設置主体は下記のどれですか。

1. 都道府県 2. 市町村直営 3. 市町村国保 4. 一部事務組合
5. 公的(日赤、済生会、厚生連、北社協) 6. 公益法人 7. 医療法人 8. 個人
9. その他 具体的に()

3) 診療している診療科をお答えください(複数回答可)。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科 7. 脳神経外科
8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 歯科
12. その他 具体的に () () ()

4) 上記のうち、非常勤医師(定期的な巡回診療を含む)が行っている診療科をお答えください(複数回答可)。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科 7. 脳神経外科
8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 歯科
12. その他 具体的に () () ()

5) 貴診療所の病床数をお答えください。

1. 無床
2. 有床 () 床

病床の利用状況(病床利用率)について、もっとも貴診療所の状況に合うものをお選びください。

1. 常に、ほぼ満床である。
2. 常に、5割以上の利用率である。
3. 常に、2～4割の利用率である。
4. 常に、入院患者はいるが、2割未満の利用率である。
5. 常に入院患者がいるわけではないが、年間でみれば2～5割の利用率である。
6. 常時入院している患者はおらず、年間では2割未満の利用率である。
7. ほとんど、病床は利用していない。

病床が十分に利用されていないことに関して、考えられる理由(最大3つ)をお選びください(複数回答可)。

1. 入院の適応となる患者が少ない。
2. 診療所での入院を勧めても、本人・家族が大きな病院での治療を希望する。
3. 診療所での入院を勧めても、本人・家族が在宅での治療を希望する。
4. 診療所での入院では、十分な治療効果が得られない。
5. 入院治療を行うことが、医師を含めたスタッフの負担となる。
6. 病床の届出はしているが、看護・給食・寝具などの療養環境が整備されていない。
7. その他 具体的に()

考えられる理由(最大3つ) () () ()

6) 実診療日(外来)は1週間のうち何日ですか。

_____日

(午前と午後に診療されている場合[保健活動や訪問診療等を含む]を1日、診療時間が午前のみまたは午後の場合を0.5日[診療時間4時間前後]、出張診療所などで診療時間が3時間の場合は0.3日、2時間の場合は0.2日とお考えください。)

7) 休日の診療体制をお答えください。

1. 医師の自宅(宿舎)に直接電話等で連絡してもらおう。
2. 診療所の転送電話(事務職員等の取次ぎを含む)で医師に連絡してもらおう。
3. 他の医療機関(後方病院)や輪番制で対応している。
4. その他 具体的に()。
5. 特に診療体制はない。

8) 平日の時間外の診療体制をお答えください。

1. 医師の自宅(宿舎)に直接電話等で連絡してもらおう。
2. 診療所の転送電話(事務職員等の取次ぎを含む)で医師に連絡してもらおう。
3. 他の医療機関(後方病院)や輪番制で対応している。
4. その他 具体的に()。
5. 特に診療体制はない。

9) 職員の構成をお聞かせください。

常勤医師： _____名	非常勤医師： _____名
常勤歯科医師： _____名	非常勤歯科医師： _____名
常勤看護職： _____名 (看護師・保健師・助産師)	非常勤看護職： _____名 (看護師・保健師・助産師)
常勤歯科衛生士： _____名	非常勤歯科衛生士： _____名
常勤事務職員： _____名	非常勤事務職員： _____名
常勤()： _____名	非常勤()： _____名
常勤()： _____名	非常勤()： _____名
常勤()： _____名	非常勤()： _____名

勤務している医師の専門とする診療科は下記のうちどれですか(複数回答可)。

複数の医師が勤務している場合は、全ての医師の診療科をご記入ください。

常勤医師 1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科
7. 脳神経外科 8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 総合診療
12. その他 具体的に () () ()

非常勤医師 1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科
7. 脳神経外科 8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 総合診療
12. その他 具体的に () () ()

10) 診療所の平均的な1日外来患者数、および月あたり時間外患者数は何名ですか。

1日平均患者数： _____名 時間外患者数 月： _____名

11) 下記の診療機器等のうち、診療所に設置されているものに○をおつけください(複数回答可)。

1. 眼底鏡 2. 耳鏡 3. 心電計 4. 腹部超音波断層装置 5. 心臓超音波断層装置
6. 単純エックス線撮影装置 7. CT(ヘリカルCTを含む) 8. MRI 9. 院内血液検査装置
10. ホルター心電計 11. 除細動器(AEDを含む) 12. 上部消化管内視鏡 13. 下部消化管内視鏡
14. その他 具体的に () () ()

【医療連携および遠隔医療】

問2 同じ診療圏内(貴診療所が保健医療を提供している地域および受診する住民が居住している範囲)には、貴診療所の他にいくつの医療機関がありますか。 _____施設

問3 同じ診療圏内にある医療機関の診療科は下記のうちどれですか(複数回答可)。

複数の医療機関がある場合は、全ての医療機関の診療科をご記入ください。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科
7. 脳神経外科 8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 歯科
12. その他 具体的に () () ()

問4-1 患者を紹介するなど連携している一番近くにある病院の診療科は下記のうちどれですか(複数回答可)。

1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 小児科 5. 産科 6. 婦人科
7. 脳神経外科 8. 眼科 9. 耳鼻いんこう科 10. 皮膚科 11. 歯科
12. その他 具体的に () () ()

問4-2 その病院までの移動距離、所要時間をご記入ください。

移動距離()km 所要時間()分

問4-3 その際の搬送手段を下記からお選びください。

1. 救急車
2. 救急車以外の自動車
3. 船舶
4. ヘリコプターまたは航空機
5. その他 具体的に()

問5 遠隔医療についてお答えください。

1. 遠隔医療を利用している
2. 必要だと思うが、利用したことはない
3. 遠隔医療は特に必要ない
4. その他 ()

問6 問5で1. 利用していると答えられた方にお聞きします。利用している内容をお答えください(複数回答可)。

1. エックス線写真、CT画像等の静止画像による診断
2. 血管造影等の動画による診断
3. 病理組織などの診断
4. テレビ電話による診断、治療
5. 電子メールを利用した症例検討・相談
6. 在宅患者のモニター
7. テレビ会議等による学会、研究会、講演会への参加
8. 他院の電子カルテの閲覧、他院への紹介状
9. その他()

問7 遠隔医療を推進する上での課題についてお答えください(複数回答可)。

1. 導入時のハード、ソフト等の設備費が高価である
2. 機器の更新等の費用が高価である
3. 通信費等の維持費が高い
4. 医療機器とパソコンを接続するインターフェースが整っていない
5. 操作が煩雑である、面倒くさい
6. 通信等の処理速度が遅い
7. 現場のニーズに合っていない
8. 相談を受ける側の医師が確保されていない
9. その他()

【へき地医療拠点病院】

問8 貴診療所を支援(非常勤医師や代診医師の派遣等)しているへき地医療拠点病院はありますか。

1. ある (病院名:)
2. 拠点病院以外の支援病院がある (病院名:)
3. ない

問9 問8で「1. ある」と回答された方にお聞きします。へき地医療拠点病院が、下記のa~lのうち果たしている機能について記号に○をつけ、さらにその働きの効果についてお書きください。

- | | | | | |
|-----------------|--------|-------|------|-------|
| a. 非常勤医師の定期派遣 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| b. 非常勤医師の随時派遣 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| c. 代診医の派遣 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| d. 長期の代診(産休・療養) | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| e. コメディカルの派遣 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| f. へき地巡回診療 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| g. 医療職の研修の受入れ | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| h. 画像伝送等の遠隔医療 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| i. 定期的な症例検討会 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| j. 紹介患者の受入れ調整 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| k. 総合的な臨床医の養成 | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |
| l. その他 () | ①十分である | ②まずまず | ③不十分 | ④効果なし |

問10 貴診療所にとってへき地医療拠点病院が持つべき機能を下記から3つまでお選びください。

1. 非常勤医師の定期派遣
2. 非常勤医師の随時派遣
3. 代診医の派遣
4. 長期の代診(産休・療養)
5. コメディカルの派遣
6. へき地巡回診療
7. 医療職の研修の受入れ
8. 画像伝送等の遠隔医療
9. 定期的な症例検討会
10. 紹介患者の受入れ調整
11. 総合的な臨床医の養成
12. その他 ()

へき地医療拠点病院が持つべき機能 3つまで () () ()

【へき地医療支援機構】

問11 へき地医療支援機構(以下、「機構」といいます。)が設置されましたが、機構が貴都道府県のどこに設置されているかご存知ですか。

1. はい
2. いいえ

問12 機構の機能として代診医の派遣や研修会の開催などがありますが、以下のうち、利用や参加をしたものに○をつけてください(複数回答可)。

1. 代診医師の派遣を受けたことがある(現在、受けているものも含まれます)。
2. 医師以外の医療職の派遣(臨時を含む)を受けたことがある(現在、受けているものも含まれます)。
3. へき地に勤務する医療職のための研修会に参加したことがある。
4. へき地医療に関する協議会に出席・参加したことがある。
5. へき地に赴任する医師として登録している(そのため現在勤務している)。
6. へき地に赴任することを目的とした研修を受けたことがある。
7. その他 具体的に ()
8. 特に利用や参加をしたことはない。

問13 貴診療所の運営にとって機構の機能は満足のいくものですか。

1. はい
2. いいえ

【後方病院への搬送】

問 14 診療所における下記の病態の診療について、後方病院への搬送が必要とされる頻度、搬送の状況などについてお聞きします。

	搬送が必要とされる頻度 ①月に1回前後以上 ②数ヶ月に1回以上 ③年に1回以上 ④数年に1回程度 ⑤今まで経験したことがない(前任者も含めて)。	搬送先医療機関 ①ほぼ固定している。 ②数か所の医療機関が対応している。 ③決まった医療機関はないが、対応できている。 ④搬送先決定に苦慮することが多い。	搬送手段 ①ほぼ固定しており、円滑に搬送できている。 ②ほぼ固定しているが、必ずしも円滑ではない。 ③その都度調整するが、円滑である。 ④その都度調整する必要があり、必ずしも円滑ではない。	搬送不能の頻度 ①ほとんどない。 ②数年に1回程度 ③年に1回程度 ④年に数回以上、搬送ができないことがある。
1) 脳卒中などの脳血管障害	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
2) 急性心筋梗塞などの心疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
3) 緊急手術が必要な外傷患者	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
4) 専門治療が必要な小児疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
5) 専門治療が必要な産科疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
6) 専門治療が必要な婦人科疾患	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
7) 原因不明の呼吸困難等診断がつかない病態	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
8) 診療所では対応できない高齢者の肺炎などの感染症	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④
9) CPAOA(来院時心肺停止)蘇生後	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④

問 15 上記の場合、搬送不能の理由として、もっとも重要なもの(頻度が多い、あるいは善後策が立てにくい)1つに○をつけてください。

1. 搬送先医療機関が選定できない。
2. 搬送手段が選定できない。
3. 搬送先および搬送手段が選定できない。
4. その他 具体的に()

	1) 現在の対応	2) 理想的な対応
	①診療所に対応可能である ②診療圏内に対応可能である ③診療圏内に対応は不可能である	①診療所に対応すべきである ②診療圏内に対応すべきである ③診療圏内に対応する必要はない。
16. 乳がん検診 (マンモグラフィ)	① ② ③	① ② ③
17. 術後の外来経過観察	① ② ③	① ② ③
《心疾患》		
18. 虚血性心疾患の心電図による 診断	① ② ③	① ② ③
19. 心筋梗塞治療後(退院後)の 外来通院と薬物治療	① ② ③	① ② ③
20. 不整脈の診断 (ホルター心電図を含む)	① ② ③	① ② ③
《脳血管疾患》		
21. 脳血管障害の頭部CTスキャン による診断	① ② ③	① ② ③
22. 脳血管障害による片麻痺 (半身不随)に対するリハビリ	① ② ③	① ② ③
23. リハビリ後、後遺症を残した 状態での在宅医療と介護支援	① ② ③	① ② ③
《外科疾患》		
24. 急性虫垂炎の診断	① ② ③	① ② ③
25. 急性胆のう炎の診断	① ② ③	① ② ③
26. 急性膵炎の診断	① ② ③	① ② ③
《整形外科疾患》		
27. 腰痛症・肩関節周囲炎に 対するトリガーポイント注射	① ② ③	① ② ③
28. 膝関節腔への薬剤注入	① ② ③	① ② ③
29. 骨盤牽引・脊椎牽引	① ② ③	① ② ③
《外傷。救急疾患》		
30. 四肢外傷の初期治療 (骨折を除く)	① ② ③	① ② ③
31. 骨折患者の初期治療	① ② ③	① ② ③
32. 外傷性腹腔内出血の初期 治療(気道管理・輸液・診断等)	① ② ③	① ② ③
33. 脊髄損傷の初期治療	① ② ③	① ② ③
34. 来院時心肺停止症例(CPAOA) に対する心肺蘇生	① ② ③	① ② ③
35. カウンターショック	① ② ③	① ② ③
36. 一般住民に対するBLS指導	① ② ③	① ② ③
《小児の疾患》		
37. 小児(乳児以上)の診察	① ② ③	① ② ③

	1) 現在の対応			2) 理想的な対応		
	①診療所に対応可能である ②診療圏内に対応可能である ③診療圏内に対応は不可能である			①診療所に対応すべきである ②診療圏内に対応すべきである ③診療圏内に対応する必要はない。		
38. 新生児・乳児の診察	①	②	③	①	②	③
39. 小児の採血・輸液	①	②	③	①	②	③
40. 小児の肺炎の治療	①	②	③	①	②	③
41. 小児の喘息の治療	①	②	③	①	②	③
《産科》						
42. 妊婦健診	①	②	③	①	②	③
43. 正常分娩の介助	①	②	③	①	②	③
44. 帝王切開術	①	②	③	①	②	③
《眼科疾患》						
45. 結膜炎の治療	①	②	③	①	②	③
46. 白内障の薬物治療	①	②	③	①	②	③
47. 眼内異物の治療	①	②	③	①	②	③
48. 視力検査	①	②	③	①	②	③
49. 眼底カメラ	①	②	③	①	②	③
50. 眼圧測定	①	②	③	①	②	③
《耳鼻科疾患》						
51. 鼻出血	①	②	③	①	②	③
52. 耳垢摘出	①	②	③	①	②	③
53. 喉頭異物	①	②	③	①	②	③
54. 鼻炎の治療	①	②	③	①	②	③
55. 慢性副鼻腔炎の薬物治療	①	②	③	①	②	③
56. 聴力検査	①	②	③	①	②	③
《皮膚科疾患》						
57. 湿疹の診断と治療	①	②	③	①	②	③
58. 褥瘡の保存的治療	①	②	③	①	②	③
59. 熱傷の治療	①	②	③	①	②	③
《各種検査》						
60. 院内血液検査	①	②	③	①	②	③
61. 腹部超音波検査	①	②	③	①	②	③
62. 心臓超音波検査	①	②	③	①	②	③
63. エックス線テレビ	①	②	③	①	②	③
64. MRI	①	②	③	①	②	③
65. 人工透析	①	②	③	①	②	③

問 18-1 貴診療所は、初期救急医療にどの程度対応していますか。

1. 十分対応できている
2. 対応できている
3. あまり対応できていない
4. まったく対応できていない

問 18-2 前問で、3. または4. を選ばれた方にお聞きします。十分に対応できない理由をお答えください。

(例：エックス線撮影が行えない、スタッフの能力が不十分、小児の診察に自信がない等)

問 19-1 貴診療所は、プライマリケア(ありふれた健康問題に対応する医療。初期救急医療を除く)について、地域のニーズに応えていますか。

1. 十分対応できている
2. 対応できている
3. あまり対応できていない
4. まったく対応できていない

問 19-2 前問で、3. または4. を選ばれた方にお聞きします。十分に対応できない理由をお答えください。

(例：皮膚疾患を診療することができない、小児の診察に自信がない等)

【臨床研修・学生実習】

問 20 平成 16 年度から医師の臨床研修が必修化され、「地域保健・医療」として、へき地・離島における研修が導入されましたが、貴診療所ではこれまで卒後 2 年未満の初期研修医を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ研修期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 21 貴診療所ではこれまで卒後 3 年～5 年目の後期研修医を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ研修期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 22 貴診療所ではこれまで医学部学生(学年は問いません)の実習を受け入れたことがありますか。

1. はい 具体的な受入れ状況 のべ人数(概数) ()名/年
のべ実習期間(概数) ()週間/年
2. いいえ

問 23-1 貴診療所では、医師・医学部学生以外の医療専門職の研修や医療系教育機関の学生の実習を受け入れたことがありますか(看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、OT、PT等)。

1. はい
2. いいえ

問 23-2 受け入れた経験のある方にお聞きします。受入れた職種、学生についてお答えください(複数回答可)。

医療専門職

1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 薬剤師 5. 診療放射線技師
6. 臨床検査技師 7. OT・PT 8. その他 具体的に() ()

医療系学生

9. 看護系 10. 薬学部系 11. 医療技術系(放射線技師・検査技師・OT・PT等)
12. その他 具体的に () () ()

以下は、研修医や学生の受入れの経験に関わらずお答えください。

問 24-1 研修医の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われませんか。

1. はい 次のうち、具体的なメリットに○をおつけください(複数回答可)。
①診療所勤務医師の研鑽 ②診療所スタッフの研鑽 ③診療所業務の活性化
④へき地医療に対する理解の促進 ⑤へき地(離島を含む)に勤務する医師の増加
⑥その他 具体的に ()
2. いいえ

問 24-2 今後、初期研修医を受け入れたいと思われませんか。また、その理由もお答えください。

1. はい 2. いいえ
その理由

問 25 医学部学生の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われませんか。

1. はい 具体的なメリットに○をおつけください(複数回答可)。
①診療所勤務医師の研鑽 ②診療所スタッフの研鑽 ③診療所業務の活性化
④へき地医療に対する理解の促進 ⑤へき地(離島を含む)に勤務する医師の増加
⑥その他 具体的に ()
2. いいえ

【研修・研究】

問 26 研修・研究についておたずねします。計画的に研修・研究日を設け実施していますか。

1. 実施している 2. 実施していない

問 27 学会・研修会等による短期の出張の場合、どのように対処されていますか。

1. 休診にする 2. 代診医を要請し、確保している 3. 代診医を要請するが確保できない
4. 診療日の変更など臨機応変に対処している 5. 診療所の他の医師が対応する
6. 基本的に出張には行かないようにしている 7. その他 ()

【行政との関係】

問 28 診療所の活動について、行政の支援・協力の体制はいかがですか。

1. 十分な支援・協力がある 2. 一応の支援・協力がある 3. あまり支援・協力が無い 4. わからない

問 29 保健福祉行政に診療所医師としての意見が反映されていますか。

1. 十分反映されている
2. 反映されている
3. あまり反映されない
4. 全く反映されない
5. わからない

【勤務を続けるための支援】

問 30 あなたがへき地の診療所で勤務を続けるために必要なことは何ですか。下記から3つまでお選びください。

1. 勤務環境(勤務時間、通勤状況)の向上
2. 生活環境(住宅環境等)の向上
3. 子どもの教育の充実
4. 診療支援体制の強化(代診医等の派遣、患者搬送システムの整備等)
5. 研修・生涯教育の充実
6. 勤務環境の充実(勤務時間、休日、託児施設等)
7. 報酬の充実
8. 地元行政の理解と協力
9. 地域住民の理解と協力
10. 複数医師体制の確保
11. 安定した身分
12. 最新医療機器の整備
13. へき地医療拠点病院群を含めたネットワークの中での人事ローテーション
14. 都道府県やへき地医療支援機構の理解と協力
15. 専門医取得のための研修ができること
16. 学位取得に対する支援
17. 地域で研究を行うための支援(研究費、研究指導等)
18. その他 ()

へき地で勤務を続けるために必要なこと 3つまで () () ()

問 31 今後、へき地医療を向上させるために必要なことは何ですか。下記から3つまでお選びください。

1. 後方支援病院の機能強化
2. へき地医療支援機構の活動の強化
3. 国・都道府県の指導力
4. 広域化による資源の有効利用
5. 休日・夜間の診療体制の整備(診療所勤務医師の負担軽減)
6. 受診行動などに関する住民への啓蒙
7. 住民の保健医療行政への関与
8. 地域医療に関わる人材の育成・確保と教育の改善
9. 総合的な診療の普及
10. 都道府県の自由な裁量によるへき地医療対策
11. 保健福祉医療が一体となったまちづくり
12. その他 ()

へき地医療を向上させるために必要なこと 3つまで () () ()

【現在のへき地勤務について】

問 32 あなたがへき地の診療所に勤務している理由についてご記入ください。下記から3つまでお選びください。

1. やりがいがあるから
2. 働きやすいから(住民や職員がよい)
3. 自然環境がよいから
4. 自治医科大学やへき地勤務のための奨学金制度などの義務年限内だから
5. 大学医局からの派遣
6. 近隣に両親や親しい人が住んでいるから
7. 出身地(出身地に近い)だから(両親の跡を継いで)
8. 報酬が良いから
9. 後任がないから
10. 近隣の病院からの派遣
11. その他 ()

へき地に勤務している理由 3つまで () () ()

問 33-1 現在、勤務されている施設での勤務についてお聞かせください。

1. できるだけ長く勤務したい
2. 任期が終了するまで
3. 後任が見つかるまで
4. 早く退職したい
5. 退任後、しばらくしたら(子どもの教育終了後など)再び赴任したい
6. その他 ()

問 33-2 前問で、3. 後任が見つかるまで または 4. 早く退職したい の場合、理由をお聞かせください。

問 34 現在、勤務されている施設での勤務期間(赴任から退任まで)の予定はどのくらいですか。

1. 1年以内
2. 1～3年以内
3. 3～10年以内
4. 10年以上
5. その他 ()

【研修歴】

問 35 あなたが受けられた初期臨床研修(卒後2年以内)はどのようなものでしたか。お答えください。

1. 総合診療方式(内科系・外科系等に限らず、総合診療を指向したさまざまな内容について研修するもの)
2. ストレート研修方式(内科系・外科系などの診療科を中心に研修するもの)
3. インターン制度
4. その他 ()

問 36 あなたが初期臨床研修終了後から卒後5年目までに、研修を受けた診療科についてお答えください(複数回答可)。

1. 内科
2. 外科
3. 整形外科
4. 小児科
5. 産科
6. 婦人科
7. 脳神経外科
8. 眼科
9. 耳鼻いんこう科
10. 皮膚科
11. 泌尿器科
12. 麻酔科
13. 精神科
14. 形成外科
15. 内視鏡科
16. その他 具体的に () () ()
17. 特に研修は受けていない

問 37 あなたが卒後6年目以降に、研修を受けた診療科等についてお答えください(複数回答可)。

通常の勤務中の研修(on the job training: 例 週に1日研修施設等で行う研修)や、一定期間(数か月等)研修施設で行う研修(off the job training)などを含みます。

1. 内科
2. 外科
3. 整形外科
4. 小児科
5. 産科
6. 婦人科
7. 脳神経外科
8. 眼科
9. 耳鼻いんこう科
10. 皮膚科
11. 泌尿器科
12. 麻酔科
13. 精神科
14. 形成外科
15. 内視鏡科
16. その他 具体的に () () ()
17. 特に研修は受けていない

問 38-1 あなたが受けられた初期臨床研修(卒後2年以内)は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない

問 38-2 あなたが受けられた後期臨床研修(卒後3～5年目)は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない
6. 研修を受けていない

問 38-3 あなたが卒後6年目以降に受けられた研修は、現在行っている診療に役立っていますか。

1. 十分に役立っている
2. 役だっている
3. あまり役立っていない
4. 役立っていない
5. わからない
6. 研修を受けていない

【生活状況】

問 39 あなたの家族構成についてお答えください。

1. 独身 2. 家族と同居 3. 単身赴任 4. 別居している家族がいる

問 40-1 あなたが、平日に住んでおられる住居についてお答えください。

1. 医師専用住宅(戸建) 2. 医師専用住宅(集合住宅) 3. 診療所近辺の借家
4. 診療所近辺の持ち家 5. 診療所のある地区以外にある自宅(職場へは通勤している)
6. その他(よろしければ具体的に)

問 40-2 通勤時間をお教えください。

通勤時間 ()分

通勤手段 (該当するものに○をつけてください) (複数回答可)

徒歩・自転車・自動車・電車およびバス・船・その他 具体的に()

問 40-3 あなたが、平日に住んでおられる地域の郵便番号をお聞かせください。

(-)

問 41 今後のへき地医療対策にご意見等がありましたら、どうぞお聞かせください。

(必要があれば続紙をつけてください)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 21 年 7 月 1 日

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇病院長
〇〇 〇〇 様

厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を
構築する方策および評価指標に関する研究」班
[研究代表者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教授)]

平成 21 年度厚生労働科学研究への協力について (お願い)

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちは平成 17 年度から 3 年間にわたって「持続可能なへき地等における保健医療を実現する方策に関する研究」を行い、へき地・離島に赴任する医師を増加させることを目的とした『へき地・離島医療マニュアル』、「都道府県へき地・離島保健医療計画策定に向けての事例集(平成 18 年度版)」、「へき地・離島の保健医療のあるべき姿(平成 19 年度版)」を作成し公表いたしました。

この 3 つの著作物につきましては、へき地離島救急医療研究会のホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/emraii/index.shtml>)にてご覧いただけます。

平成 20 年度からは標記の研究事業において、へき地・離島の保健医療を向上させる具体的な方策を示すとともに評価の方法を提示することを目的としております。

このたび、へき地・離島に赴任する医師を増加させる方策を明らかにするために、現在大学附属病院や臨床研修病院に勤務する研修医(初期：卒後 1～2 年、後期：卒後 3～5 年)および指導医クラスの医師等を対象として、臨床研修歴、現在の診療科、総合診療に対する意識、専門医取得に対する考え方、新臨床研修制度に対する評価、勤務に関する価値観、へき地勤務に対する考え方等につきまして、調査を行うことといたしました。

つきましては、貴病院に所属する臨床に携わる全ての医師について、別添資料のようにアンケートを実施いたしたく、調査用紙の配布および回収にご協力いただきますようお願い申し上げます。具体的方法については、次葉の説明をご覧ください。

また、へき地・離島に赴任する医師の臨床研修はどうあるべきかを明らかにするために、現在行なわれている臨床研修に関する現地調査も計画しております。

貴病院にお伺いすることもあると思いますが、その時はよろしくご協力のほどお願いいたします。

なお、別紙のとりまとめ票(各所属ごと)にご記入の上、調査用紙とともに、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

調査内容照会先 自治医科大学救急医学教室(担当：今道、鈴木)

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

電話 : 0285-58-7395 F A X : 0285-44-0919

とりまとめ票 (各所属単位)

A. 所属名 : _____

B. ご担当者についてご記入ください。(調査用紙についてお問合せをする場合がございます)

お名前 _____

内線番号 _____

E-mail address _____

連絡先電話番号 _____

C. 貴所属における配布数および回答数

☆調査用紙を配布した医師の数は回答率の算出に必要ですので必ずご記入ください。

	調査用紙の配布数 (初期研修医、後期研修 医に関しては、在籍する 医師の数でも結構です)	回答した医師の数
初期研修医 (経験2年目以下)		
指導医クラスの医師 (経験7年目以上)		
指導医クラス以外の医師 (経験3～6年目)		

調査内容照会先：厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を
構築する方策および評価指標に関する研究」班
[研究代表者 鈴川正之(自治医科大学救急医学教授)]

担当：自治医科大学救急医学教室(担当：今道、鈴川)
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
電話：0285-58-7395 F A X：0285-44-0919

医師の総合診療およびへき地勤務に対する指向に関するアンケート調査の概要

1. 調査の目的

平成18年度から始まった第10次へき地保健医療対策において、へき地・離島に赴任する医師を増加させることを目的としたへき地に対応すべき診療内容をまとめた『へき地・離島医療マニュアル』や、中・高年・リタイアした医師の再研修制度が盛り込まれました。

そこで、本研究班では、こうしたへき地・離島に赴任する医師の増加策が有効に機能するために必要な対策について明らかにすることを目的として、現在へき地・離島に勤務していない医師(初期研修医、後期研修医、中堅医師、ベテラン医師)を対象に総合診療およびへき地勤務に対する考え方について調査を行うことといたしました。この調査では、大学附属病院および臨床研修病院の勤務医師に対して、研修歴、現在の診療科、総合診療に対する意識、専門医取得に対する考え方、新臨床研修制度に対する評価、勤務に関する価値観、へき地勤務に対する考え方等について調査を行い、へき地・離島に赴任する医師を増加させるにはどのような施策が必要かを明らかにすることにしています。

2. 調査の対象

以下の大学附属病院および臨床研修病院に勤務する医師(初期研修医、後期研修医、指導医師)。

札幌医科大学附属病院、鹿児島大学附属病院、国立長崎医療センター、島根県立中央病院、自治医科大学附属病院

なお、本調査は、医師としての経験(勤務)年数により、初期研修医(1～2年目)、後期研修医(3～5年目)、中堅医師(6～15年目)、ベテラン医師(経験16年目以上)を対象として行います。

3. 調査票の取り扱い

調査内容の分析、結果の取りまとめ等は全て匿名で行います。

4. 調査票の配布

各施設のご担当者の方から、それぞれの所属を通じて、対象となる医師に調査の概要(本紙)、調査用紙、調査用紙を封入する封筒の配布をお願いします。調査用紙の配布および回収に関する具体的な方法については、各施設にお送りする「調査方法の説明」をご参照ください。

5. 調査票の記入

医師の方は、調査用紙にご回答の上、添付の封筒に封入して7月31日までに、各所属のご担当者までご提出ください。各所属のご担当者の方は、封入された封筒のまま、各施設全体のご担当者までご提出ください。

なお、調査票の匿名性を確保するため、封筒は事務局にて開封したのち、破棄いたします。

6. 調査票の回収

各施設全体のご担当者は、封筒に入った状態の回答用紙を、調査用紙の配布数および回答数が記入された「とりまとめ票」とともに、8月10日までに着払いにて事務局までご返送ください。

7. 調査の実施主体及び調査結果の取りまとめ

本調査は、厚生労働科学研究「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班(研究代表者 鈴木正之(自治医科大学救急医学教室教授))で実施するものです。

当研究班では、調査結果を取りまとめて報告書を作成します。

8. 調査票の返送先および調査内容の照会先

「現状に即したへき地等の保健医療を構築する方策および評価指標に関する研究」班 事務局
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1 自治医科大学救急医学

電話：0285-58-7395 FAX：0285-44-0919 (担当 鈴木、今道、半澤、上野)